



ブナ科 ブナ属

北海道から東北中部までは平地に見られるが、それ以南では緯度が低くなるに従い、800～1000m以上の冷涼な高地に自生する。高さ20m以上の高木になる落葉広葉樹。樹皮は灰白色で若木のうちは平滑であるが、古木になると幹に縦の不規則に溝ができるとともに、かなりでこぼこした感じになる。幹が白いことからシロブナの別名があり、これに対しブナよりも標高の低い地(500～1000m)に生育するイヌブナは、葉裏に毛があり幹が黒灰色なところからクロブナの別名がある。

葉とつき方 葉は長さ5～9cm、幅3～4cmの卵形で、長さ5～10mmの柄をもち互生する。基部は左右不対称の広いくさび形で、葉先は細く鋭く尖る。表面は緑色で無毛。若葉のうち葉裏の基部に毛があるが、すぐになくなる。質は洋紙状で側脈が大きく凹み、ふちは大きな波状の鈍鋸歯となる。この端正な葉の形とつけ根や枝先につく細くて先の尖った褐色の芽がこの木の特徴といえる。